

1. 広東省

1. 改革の全面的な深化に関する省党指導グループ第22回会議の開催

●14日午前、胡春華・省党書記主宰の上記会議で、第18期六中全会の精神を学習・貫徹し、改革の全面的な深化に関する中央指導グループ第28回、第29回会議及び習近平・総書記の重要講話の精神を伝達・学習した。胡書記は習近平同志を核心とする党中央の周囲で緊密に団結し、重点任務をしっかりとつかんで集中的に取り組み、手を緩めずにあくまでも改革を深める方向へ進めていくよう強調（11月15日付『南方日報』）。

2. 広東・内モンゴル協力・交流座談会の開催

●14日午後、胡春華・省党書記、朱小丹・省長がブシャオリン・内モンゴル自治区主席率いる内モンゴル政府代表団と懇談。胡書記が座談会を主宰するとともに講話を行い、両地域は経済発展において双方の強みを十分に発揮し、産業協力を全力で強化し、ウィンウィン発展を実現しなければならないと強調（11月15日付『南方日報』）。

3. 15日、胡春華・省党書記が東莞市の医療・衛生体制改革、民営医療機関の状況を視察

●東莞市の民営医療機関数は1,875、民営病院数は44で、市全体の（病院の）ベッド数の27%を占めている。中でも康華医院（ベッド数1,076、医師数466人）と東華医院（ベッド数1,329、医師数455人）は三甲（最高レベルの）病院となっている。袁宝成・副省長等が同行（11月16日付『南方日報』）。

4. 胡春華・省党書記、朱小丹・省長が孫文生誕150周年記念イベントの来賓一行と会談

●16日午後、胡春華・省党書記が齊統春・全国政協副主席率いる上記一行（海外在住の孫文の親族、香港、マカオ、台湾からの来賓）と会談。朱小丹・省長、黄龍雲・省人代常務委員会主任、王榮・省政協主席も同席（11月17日付『南方日報』）。

5. 胡春華・省党書記が米ミシガン州知事と会談

●17日午後、上記会談で胡春華・省党書記は次のように述べた。本年5月、広東省とミシガン州は友好省・州協定に署名し、現在、深圳市・ミシガン州貿易・投資・イノベーション協力センター等の協力プロジェクトを急いで進めているところである。両省・州が友好都市のプラットフォームを拠り所として多次元の交流・協力を更に強化し、スマート自動車、無人運転、エコカー等、最先端の自動車産業において共に探求し、科学技術、教育、農業等の分野における協力を積極的に拡大し、両省・州の実務協力を推進し、より多くの実り豊かな成果を生み出していきたい（11月18日付『南方日報』）。

6. 第3回海峡兩岸中山フォーラムが開幕

●17日、中山市で上記フォーラムが開幕し、齊統春・全国政協副主席、張志軍・中央台湾工作弁公室主任、朱小丹・省長、台湾から蔣孝嚴・中国国民党名誉副主席、都慕明・新党主席等が開幕式に出席（11月18日付『南方日報』）。

7. 南方財經トータル・メディア集団の設立

●17日午前、中央の認可を経て、国内初のトータル・メディアとなる南方財經トータル・メディア集団が誕生し、広州市で除幕式が行われ、慎海雄・省宣伝部長、黄業斌・省人代常務委員会副主任、藍仏安・副省長、温蘭子・省政協副主席等が出席。胡春華・省党書記は同集団の設立を非常に重視し、その状況について何度も聴取し、集団の枠組み・運営・管理等、各項目について明確な指示を出した。朱小丹・省長はその指示の中で、同集団は位置づけをしっかりとさせ、目標を明確にし、大胆に探求し、道を切り開いてイノベーションを行い、同集団を国内をリードし、国際的にも知られ、強い影響力と発信力を備えた総合的な経済メディアとするよう努力し、全省の経済が持続的・健全かつ安定的に発展するために貢献して欲しいと述べた（11月18日付『南方日報』）。

8. 2016年東莞・台湾名品博覧会（台博会）が開幕

●18日、東莞市で上記博覧会が開幕し、台湾の企業及び同市の台湾資本企業が生産したハイエンドなコンシューマー製品、台湾のオリジナル製品、特色ある食品等が主に展示され、300数社が出展（うち台湾からは110社）（11月19日付『広州日報』）。

9. 趙樂際・中央組織部長が広東省を視察

●17日～19日、趙樂際・中央組織部長が広東省を視察し、次のように強調した。第18期六中全会の精神を深く学習・貫徹し、政治意識・大局意識・核心意識・看齐意識を適切に強化し、習近平同志を核心とする党中央の權威をいっそう揺るぎなく擁護し、より自覺的に思想、政治、行動の上で習近平同志を核心とする党中央との高度な一致を保ちながら、更に着実かつ効果的に党中央の政策決定・段取りを実行しなければならない。胡春華・省党書記が関連活動に参加。趙組織部長はまず深圳市のファーウェイ、DJI、前海社区を視察した。次に胡書記とともに広州市の東湖新村を訪れ、一般の黨員たちと親しみをもって交流し、末端の党組織建設状況に対する理解を深めた（11月20日付『南方日報』）。

II. 広州市

1. 陳宝生・教育部長が広州市を視察

●13日、任学鋒・市党書記、温国輝・市長が広州市を視察に訪れた陳宝生・教育部長一行と懇談。陳教育部長は広州市の教育改革・発展の成果を十分に肯定し、次のように述べた。同市は国の重要な中心都市、華南地域の科学・教育の中心であり、市党委員会、市政府が教育に関する業務を非常に重視し、ここ数年、教育改革の成果が顕著に表れている。各レベル・各種の教育が迅速に発展し、多くの良質な資源を集め、特長のある学科を形成しており、教育の質・水準が絶えず向上している。特に広州大学城の建設は、同市の高等教育の発展を示すマイルストーンである。教育部はこれまでどおり同市の教育発展を全力で支持し、同市が国の重要な中心都市となり、率先して小康社会を全面的に建設していくために、人材面・知識面でのサポートを提供していく（11月14日付『広州日報』）。

2. 2019年に広州市で中国クルーズ産業発展大会・国際クルーズ博覧会の開催が決定

●14日、任学鋒・市党書記が鄭焯航・中国交通運輸協会クルーズ・遊覧船部会常務副会長と会談。鄭常務副会長は南沙クルーズ・ターミナルの建設を契機に、2019年に広州市で上記大会・博覧会を開催し、クルーズ遊覧産業の発展、ビジネスの誘致、専門的な人材の育成、国際協力等の分野においてサポートし、広州市との協力を更に強化していくと述べた（11月15日付『広州日報』）。

3. 2016中国広州国際ロボット・スマート設備・製造技術展覧会が開幕

●15日、上記展覧会が開幕し、任学鋒・市党書記が徐建・中国機械工業集团公司総経理、熊有倫・中国科学院院士、王玉明・中国工程院院士、陶征宇・総装備部（現在は中央軍事委員会装備発展部）無人機システム専門チーム副リーダー等の来賓と会談するとともに、展覧会を視察。任書記は更に協力を強化し、「広州製造」から「広州スマート製造」への転換をともに推し進め、ウィンウィン発展を実現したいと述べた（11月16日付『広州日報』）。

4. 広州龍浩航空会社が花都区に本拠地を設立

●17日、広州龍浩航空会社が花都区に本拠地を設立する契約をした。南方航空、九元航空（LCC）に次いで3社目となる。広州市に本拠地を置く貨物運送航空会社としては初（11月18日付『広州日報』）。

III. 深圳市

1. 世界黄氏一族懇親大会が開幕

●13日午後、世界黄氏一族総会の第12期第3回懇親大会が開幕し、林潔・市統一戦線部長が中国華僑連合会の祝辞を読み上げた（11月14日付『深圳特区報』）。

※欧米、東南ア等の各国、香港・マカオ等の黄氏一族代表1,000人、中国各省・市の黄氏一族代表が出席。タイ、マレーシア等世界数か国では黄という名字の華人が多く、傑出した人材を輩出し、一緒に中華文化を伝えている。

2. 深圳市の気象分野における第13次5か年計画の重点プロジェクトが正式にスタート

●14日午前、新世代気象レーダー等6つのプロジェクトを中心とした重点プロジェクトが正式にスタートし、鄭国光・中国気象局党組織書記、馬興瑞・市党書記、許勤・市長が式典に出席。広東省は全国気象（観測・予報）現代化のパイロット地域であり、深圳市の気象（観測・予報）現代化建設は全省・全国の先頭に立っている（11月15日付『深圳特区報』）。

3. 第18回高交会（ハイテク技術成果交易会）が開幕

●15日午後、馬興瑞・市党書記、許勤・市長がコンベンションセンターを訪れ、第18回中国国際ハイテク技術成果

交易会（高交会）の準備作業を点検。同日午後、同組織委員会がコンベンションセンターで記者会見を行い、許勤・市長が同交易会の準備状況、主な特長について紹介するとともに、国内外の記者からの質問に回答（１１月１６日付『深圳特区報』）。

●１６日、第１８回高交会が開幕し、胡春華・省党書記が開幕式で開幕の宣言を行なった。路甬祥・全人代常務委員会元副委員長（中国科学院・中国工程院院士）、朱小丹・省長も開幕式に出席し、張驥・商務部党組織メンバー、馬興瑞・深圳市党書記がそれぞれ開幕式で挨拶。許勤・深圳市長が開幕式を主宰（１１月１７日付『南方日報』、『深圳特区報』）。

●１６日午後、第１８回高交会の一環で、「融合、イノベーション、モデル転換」をテーマとする２０１６年中国「インターネット・プラス」サミットが開催され、林念修・国家発展改革委員会副主任、懷進鵬・工業・情報化部副部長、許勤・市長が開会式に参加するとともに挨拶をした（１１月１７日付『深圳特区報』）。

４．深圳市と米デトロイト市が友好交流都市関係を正式に締結

●１６日午後、深圳市と米デトロイト市が友好交流協力覚書に署名し、正式に友好交流都市関係を締結した。双方は多分野において交流・協力を拡大しており、双方の強みを補い合い、ウィンウィンの発展を実現していくことで合意。署名の前に、馬興瑞・市党書記、許勤・市長がミシガン州知事一行と会談（１１月１７日付『深圳特区報』）。

５．バーレーン・深圳経済・貿易協力フォーラムの開催

●１７日午前、上記フォーラムが開催され、許勤・市長、バーレーン首都県知事、バーレーン王国経済発展委員会ＣＥＯが出席するとともに挨拶を行なった。許市長は馬興瑞・市党書記に代わり、一行の深圳訪問に歓迎の意を表し、次のように述べた。バーレーンは中東地域で開放度が最も高く、ビジネス環境に最も優れ、最も発展の活力に満ちている国の１つであり、深圳市が中東市場・湾岸諸国とつながる「重要なゲート」である。同市とバーレーンは「一帯一路」沿線に同居しており、中央・省の段取り・要求に基づき、「一帯一路」のハブ都市の役割を更に発揮し、共に手を取り合う周辺都市が広東省・香港・マカオ・ペイエリアを構築する中で、バーレーンを重要な協力パートナーの１つとし、工業パークの建設、港湾開発、直行便の就航、ニューエナジー等の分野における協力を基礎に、金融、情報技術産業、物流、イノベーション・起業、コンベンションの開催、観光等の分野における実務協力を重点的に推進し、双方の強みを補い合うよう努め、「一帯一路」戦略を実行するために、相互に利益をもたらすウィンウィンの発展を推し進め、両地域の民生・福祉を増進させるために、より多くの貢献をしていく（１１月１８日付『深圳特区報』）。

６．深圳市とＨＴＣが戦略的提携

●１７日午前、市政府とＨＴＣ（台湾のスマホ、タブレット製造メーカー）が戦略的協力協定に署名し、馬興瑞・市党書記、許勤・市長、ＨＴＣ董事長が署名式に立会った。ＶＲ産業を共に発展させていく（１１月１８日付『深圳特区報』）。

７．第１０回中国発展フォーラムの開催

●１８日、致公党の中央組織が政治に参加するための重要なプラットフォーム・ブランドとしている上記フォーラムが深圳市で開催され、「ニューノーマルにおける区域協力のイノベーション・発展」を主題とし、いかにして区域協力の強みをより良く発揮し、区域協力の潜在力を解放し、イノベーション・発展の功過を促進・レベルアップさせるか探った。万鋼・致公党中央主席（兼全国政協副主席、科学技術部長）が開幕式に出席するとともに、フォーラムの主旨について述べ、馬興瑞・市党書記が開幕式で挨拶（１１月１９日付『深圳特区報』）。